



第12号

「めぐみちゃんのまちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。事業の一環として整備された『農のアトリエ「蔵の里」』を活用して、市内の農業を伝える課外授業『西東京市の農業《知っとくスクール》』と『畑の防災訓練』を実施しました。

事業の
ねらい

昔の農の風景や農具の展示空間、交流スペース、情報交換、勉強会等の場として活用する。

事業の
効果

市民がまちの農業を知り、「農」をテーマとした交流拠点となる。

1 「西東京市の農業《知っとくスクール》」

10月10日（木）に碧山小学校3年生の生徒を対象に、農のアトリエ蔵の里で、市内の農業の今と昔について学ぶ「西東京市の農業《知っとくスクール》」を実施しました。この課外授業では、蔵と畑で農園主の富岡さんから農業にまつわる色々な話を聞きました。農具の変遷については、「クワやトラクターなどの農具が、昔と今ではどのように違うのか？」という話や、小麦と稲は「芒（ノギ又はノゲ）が寝ているものは稲で、まっすぐ立っているものは麦と見分けられる」ことや、蔵の中に展示してある唐箕（トウミ）を実際に動かしながら、穀物をどのようにして実と殻に分けているのかなどについて解説をしていただきました。



畑では、栽培している作物を見ながら富岡さんの話を聞きました。あまりスーパーなどでは見かけない「コールラビ」というアブラナ科の野菜を見せてもらいました。コールラビは、ブロッコリーの茎やキャベツに味が似ているそうです。畑の脇に植えられている、収穫目のたわわに実ったキウイやイチジクの実は、子どもたちからも「美味しいそう！」という声が聞こえてきました。イチジクの葉から出る白い汁を見せてもらい、昔はこの汁をイボを取るのにも使っていたということも教えてもらいました。

子どもたちから 富岡さんへの質問

- Q. 富岡さんが小学校3年生の頃は、どんなお手伝いをしていましたか？
- A. お風呂のかまどに火をつけるのを担当していました。薪は、庭木を切ったものを乾かしてから、薪割りをしていました。
- Q. 「蔵の里」の床は、昔からお相撲の土俵のようになっていたのですか？
- A. 「蔵の里」の床は、土間です。土間は土が踏み固められて、今のように固くなりました。

2 畑の防災訓練

11月15日（金）に農のアトリエ「蔵の里」で、「畑の防災訓練」を実施しました。訓練には、近隣住民の方々を中心に参加をしていただき、災害協力農地への避難体験、防災井戸の揚水体験、AEDの使用方法等講習と初期消火訓練、非常炊き出し体験の4つの訓練を行いました。

災害協力農地への避難体験

実際に震度6弱の地震があったと想定して、参加者の皆さんに災害協力農地内へ避難をしていただきました。避難場所では、それぞれの被害状況の報告をして安否確認の方法を学びました。



防災井戸の揚水体験

蔵の里にある井戸は、防災井戸として指定されています。

訓練では、災害時の防災井戸の使い方を農園主の富岡さんが説明してくれました。停電時に井戸を使用する際は、井戸のすぐそばに設置されている自家発電機を使う必要があります。発電機の使い方から井戸水を揚水するところまでを実演していただきました。



AEDの使用方法等講習、初期消火訓練

AEDの講習と初期消火訓練を行うために、2つのグループに分けられました。AEDの講習では、西東京消防署員の方々が講師となり、施設内の設置場所の説明、AEDの使用方法的説明と使用体験を行いました。

- ①肩をたたきながら声をかける（徐々に声を大きくする）
- ②大声で助けを求め、119番通報とAED搬送を依頼
- ③呼吸を確認
- ④呼吸がなかったら、胸骨圧迫を行う
- ⑤AEDの電源を入れる
- ⑥電極パッドを胸に貼る
- ⑦離れる
- ⑧ショックボタンをおす



また、消防署員の方々に「スタンドパイプ」（消火栓）の使用方法について実演を交えながら解説していただきました。



非常炊き出し体験

市の非常食として備蓄されている「アルファ化米」を調理しました。また、農園主の富岡さんから温かいトシ汁の差し入れもいただき、冷えた体が温まりました。



初期消火訓練では消防署員の指導のもと、訓練用に水を入れた消火器を使って、実際に消火活動を体験しました。



- ①火災を発見したら大声で「火事だ!火事だ!」と周囲に知らせる
- ②消火器を持ち、火に近づく
- ③安全ピンを抜く
- ④ホースの先端を消火器から外し、火元へ向ける
- ⑤レバーを握り、炎の先端では無く、火元を消火する

火を点けて消火活動を体験。「火事だ!」と大きく叫んでから消火活動。

初期消火訓練を体験した後は、三角巾を使って頭と腕の応急手当のやり方を学びました。参加者同士で実際に応急手当を行いました。



三角巾の使い方は意外と難しいようです。

参加者の皆さん、消防署の皆さん、富岡さん、ご協力ありがとうございました。今後も「農のアトリエ【蔵の里】」では、農業・農地に関連したイベント実施していきます。

西東京市では、貴重な農地を残していくために、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用した、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。「農のアトリエ【蔵の里】」は、本事業の支援を受けています。

発行：西東京市
生活文化スポーツ部
産業振興課

